

大阪「カジノ万博」誘致 !?

パリで開催されたBIE(博覧会国際事務局)総会で、2025年万博が日本・大阪に決定した(写真は毎日新聞ウェブサイトから)。

これで万博とも再び長い「付き合い」になりそうだ。どうも眠れないので、21年前を思い出しながら、複雑な思いでレポートを書いている。

市民の関心は低く、盛り上がり欠けるなか、なぜ大阪に決まったのだろうか。有力候補であった、パリが早々と撤退し、一時は「楽勝」もささやかれたが、ロシアなどの巻き返しにあった。それで巨額の資金が投入されたとの報道も。22日の産経Webによると「途上国が参加しやすいよう、万博史上最大の約240億円規模の支援プログラムを用意。万博に参加する政府代表らの本国との往復費用の援助も検討」などと。

写真は1997年6月13日の毎日新聞朝刊。2005年の愛知万博が決定した日の私のコメント。13日深夜に決定ということで、じつは誘致「成功」「失敗」のコメントを用意していた。残念ながら、「成功」の方が掲載された。ここで指摘していることは、2度目の大阪万博にもびったり当てはまる。

愛知万博は誘致決定後も、貴重な里山「海上の森」での開催に国内外から批判が集まった。開催の是非を問う県民投票条例の制定を求める運動などが、足もとの地元で展開された。誘致決定したBIEからも強烈的な批判が示され、3年後に会場を大幅に変更して、なんとか登録承認にこぎつけた。

大阪は誘致決定に浮かれている場合ではない。愛知以上に苦難の道が待っている。大阪湾の埋め立て途中の「夢洲」での開催が、何ととっても危うい。環境と災害のリスクとともに、「IR」という名のカジノ=賭博とセットで計画されていることだ。19日掲載の毎日新聞で述べたように、「心身の健康」を掲げながら、ギャンブル依存症の問題と隣り合わせという万博テーマとの「矛盾」。ブラックユーモアのようだ。これからも万博をウォッチしてレポートしていきたい。

(2018年11月24日)

